

カーボンリサイクルファンド会員の（一社）クール・アースが開発する「早生桐ジャパロニア」が安中市に採用され、8月9日に安中市内の観梅公園で植樹祭が行われました。関東圏の自治体に採用されたのは、今回が初めてです。

早生桐ジャパロニアは、従来種よりおよそ8倍早く5年で成木になり、株あたり何度が伐採できるので多くのCO<sub>2</sub>吸収・固定が見込まれます。加えて、植樹による休耕地や耕作放棄地の活用、製材としての利用の他、木材チップをバイオコークスにした水素発電への応用も可能なため、地球温暖化対策と地方創生のソリューションとして期待されています。

安中市は「環境市」をめざす中で、今後、早生桐の植樹を拡大していく計画です。



植樹祭（安中市）のようす



早生桐と製材加工例